

課題名 アイデアコンペ

指導教員 片渕 和啓

参加コンペ名 “世紀のダ・ヴィンチを探せ！” 高校生アートコンペティション

課題 自由

主催 大阪芸術大学グループ

審査員 大阪芸術大学教授陣

研究の目的

アイデアコンペを通して、アートと建築の在り方について考察する。

作品名 アーティストの家

コンセプト

アーティストを志す人は、実際に他のアーティストと交流したり、自分の作品を大勢の人に見てもらいたいという願望を持っている。しかし、実際にはそのような環境は私たちの周りにあまり存在しないことに気付いた。

そこで、私は「アーティストの家」という作品を提案する。

この形態のモチーフは円とした。円は中心性があるため「集まる」という性質を持っている。この家の住人は、異なる4つの分野のアーティストと私の5人である。

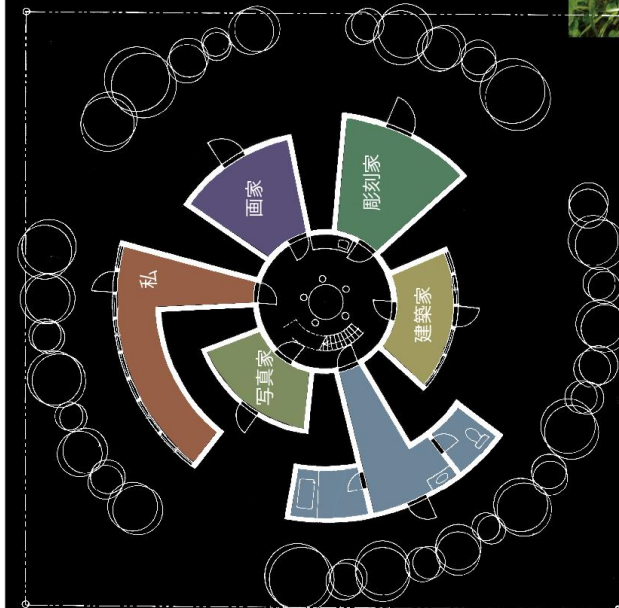
それぞれのアーティストに適した環境を考えるために、実際に使われている工房や、芸術家として活動している人達の意見を参考に、アトリエの高さや広さ、形状を可能な限り理想のものに近付けた。画家と彫刻家のアトリエには色や影の変化が少なくソフトな光が入るよう、北に面して窓を設けた。また、建築家と写真家のアトリエは光の印象を大切にできるよう、直接光が入る南面に窓を設けた。外を歩く人の気配や視線が制作の妨げにならないように窓を高めに設置したり、作品の搬入を考えて扉を大きめにするなどの工夫を施している。

中央に設けたコミュニティスペースは、作家同士の意見交換、食事、休憩の場である。ギャラリーは屋上へとつながっており、アーティストの屋外制作に利用することもできる。

晴れの日には、この建物の白い外壁や屋上は展示スペースとして利用でき、美術館よりも気軽に鑑賞を楽しめるこの場所は、作家と鑑賞者が近くで触れ合うことが可能になる。少しでも多くの人に足を運んでもらうため、建物の配置と道路の関係にも着目した。道を歩いている人は展示されている作品が建物の間からわずかに見えることで興味を持ち、敷地の中に誘い込むという効果を期待している。

この家で生活することで、アーティスト達は互いに芸術の様々な面を吸収できるだろう。

※模型は縮尺1/20で作り、模型の中に展示してある作品は全て自分で制作した。



平面図兼配置図 S=1/200



芸術を目指す人は、アーティストと交流し、自分の作品を大勢の人に見てもらいたいという希望を持っている。この家は、私と異なる分野の芸術家4人が集まり、作品を見にくる人も集まる空間である。それそれぞれのアーティストに適した環境を考えた。画家と彫刻家のアトリエは色や影の変化が少なくソフトな光が入る北窓、建築家と写真家のアトリエは光の印象を大切にできる採光。美術館よりも気軽に鑑賞を楽しめる展示スペースは、作家と鑑賞者が近くで触れ合うこともできる。この家で生活することで、4人のアーティストから芸術の様々な面を吸収したい。

アーティストの家



休憩、食事、アーティスト同士のコミュニケーションの空間と屋上に通じるギャラリー

人の視線が制作の妨げにならないように高めに設置した窓



作品の搬入を考えた大きめの扉

晴れの日限定の展示スペース

